

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表

事業所名

公表日

利用児童数

2026年 2月 10

36

回収数

24

てらびあぽけっと 長原駅前教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21	2		1		職員一同協力し合い行き届いた支援をしていきたいです。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	2		1		教室に入っていたかく機会を多くし、視覚支援の絵カード・角・ドアの隙間テープ・二重鍵・床の段差等バリアフリー化になっています。また、今後も情報伝達への配慮をしていきたいです。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23	1				一人ひとりの特性を理解・共有し、今後も寄り添った支援を提供していきたいです。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	24					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21			3		一人ひとりを大切に特性に寄り添っていける様子どもの様子等を共有し、プログラムを立てていきたいです。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	3	3	6		イベントや交流で他の子ども達と活動ができる機会を沢山作り、交流する機会を検討していきたいです。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	2	1	8		フィードバックで記録を取りペアトレをしていますが、今後情報提供などの交流を検討していきたいです。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	23	1				フィードバック時にお子様の様子をお伝えし、共有しています。必要に応じて、別途時間を設け保護者様とお話し、共通理解ができる機会を設けていきたいです。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	2				保護者の方の都合に合わせられるように職員を調整し、よりよい支援ができるように工夫していきたいです。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	1				保護者様のお気持ちに共感し寄り添った支援ができるように、傾聴の姿勢を大切にしていきたいです。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	2	3	14		兄弟同士の交流や参加イベントは楽しんでくださっています。保護者会の活動支援開催も検討していきたいです。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	1		1		今後も速い対応、時間を設け相談等寄り添った支援をしていきたいです。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24					

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19			5		メール配信、ブログ等で伝えたり、教室入り口に掲示しています。ブログを見ていない方にも見ていただけるように工夫していきたいです。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22			2		職員一同守秘義務について共有しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18		1	5		マニュアル対応を共有し、話し合っています。保護者の方にも安心していただけるように伝えていきたいです。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17			7		防災訓練を年2回実施しています。また、避難場所マップをブログで知らせています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	2		1		ヒヤリハットの共有で、危険を防ぐところが増え、今後の対応を考え安全に過ごせるようにしていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20			4		マニュアル対応を共有し、話し合っています。迅速な対応で今後も安心していただけるように職員一同心がけていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22	1		1		子ども達一人ひとりを大切に安心して過ごせるように職員一同心がけていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	1		1		子ども達がまた行きたいと思えるように、職員一同笑顔で温かい教室づくりを心がけていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	2		1	一人心配な職員がいる。	子ども達が楽しく通所できるように職員で子ども達の様子等を共有します。保護者の方にも安心していただけるように、笑顔いっぱい温かい教室にしていきたいです。

事業所における自己評価結果					
公表					
事業所名		てらびあぼけっと 長原駅前教室			
		チェック項目	はい	いいえ	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		入室してみたいと思って頂ける環境づくりを心掛けてます。また、子ども・保護者対応のスペースもあります。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		段差もなく広々としています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日空気清浄機、換気等に気を付け気持ちよく過ごせるようにしています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		子どもの特性を理解し、環境にも寄り添った支援ができる場所になるように心掛けています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		前後の状況を職員で振り返り、実行し結果を共有、反省とPDCAサイクルを意識しています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者評価により、気づけなかった点などを気づくことができ、改めて見直し次のステップにつなげられる様にしています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		意見を出しやすい環境づくり、一緒に考え次のステップにつなげられる様にしています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		職員で振り返り、新たな課題に取り組み結果につなげています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		毎月の研修で悩み事などが解決したり、色々な教室のいい部分を参考にしています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		職員間での共有、保護者様のご意向をもとに質の高い支援を目指しています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		アセスメントで共感し合い信頼関係を大切にし、保護者様のご意向を受け止め計画を作成しています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		モニタリング・アセスメントで振り返り、日々のフィードバックでも共通理解を深め共有し実施できるようにしています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		カンファレンスで、支援の方向性や内容・子どもの特性を明確に伝え、計画に沿った支援が出来るように工夫しています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		アセスメントを使用し、日々の前後の状況を踏まえた観察をしたり、細かいところも確認しています。
	16	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインに沿って勉強し、支援内容も把握しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		カンファレンスに職員が参加し、意見を出し合い、プログラムの理解、共有をしています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		子どもの特性を理解し全員がプログラムができるように努力をしています。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別から他者へのコミュニケーションへ繋げ、小集団でその子どもに合わせた支援を考えています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		時間を区切り、連絡し合いチームで連携しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		つまづきや疑問等相談し合い方向性を見直しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		付箋・掲示板・メモを持ち歩き聞き忘れないよう、共有しあっています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		モニタリングにより振り返り、療育の向上に繋がっています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		今後も参画しより良い支援をめざしていきます。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		子育て会議へ参加したり、地域の中で生きていくための重要性を高めていきます。また、希望があれば園にお伺いし、意見共有を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		他施設ともネットワークを通して相互に情報を共有しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		園・ご家族・学校で内容を理解し、相互的ニーズに伴い考えています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
		(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		他教室との情報交換や助言を受け、勉強する機会を増やしています。また、今後も勉強する機会を増やしていきたいです。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		今後交流の場を設けて、輪を広げていきたいです。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		フードバック、セラピーノートで子どもの状況を伝えています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		今後役立つ知識を広げ、実施していきたいです。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明し、対応しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		保護者様のご意向を共有し、モニタリングで振り返りより良い支援ができるように寄り添っています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		保護者様に支援内容を伝え、一緒に考えて支援をしています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談希望が多いので、時間を設けて助言・支援を今後も行っていきます。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	2		イベント開催で兄弟も楽しんで参加できる機会を設けていきたいです。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		窓口を設けて事実確認をし、対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		定期的に情報をSNSに更新しています。	

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		信頼関係共に守秘義務について紙面で伝えて います。また、書庫には名前が外部から 見えにくいようにすりガラスシートを貼っ て対策しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている か。	5		フィードバックやセラピーノートを用いて 情報共有をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている か。	5		今後も交流の場や行事に参画できる様実施 していきます。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マ ニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを策定しています。また、 保護者の方にも説明し、訓練も実施してい ます。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避 難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		避難訓練は年に2回実施しています。保護 者の方にも説明し、振り返りを大切に活か しています。また、日頃から子どもたちに 伝えたり、職員間で共有する時間を作って います。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		職員間で共有し、掲示しすぐに対応ができ るようにしています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている か。	4	1		カンファレンスの際に再確認し、周 知していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる 等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		職員間で共有し、さまざまな場面を想定す ることで、急な状況にも対応できるように しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく 取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		フィードバックの時や保護者と接する機会 に伝えたり、玄関に貼っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしてい るか。	5		ヒヤリハットの共有をすることで、対応が 明確になった。また、その対応方法を職員 全体で共有しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		事例を挙げて研修を実施したりと対応して います。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こど もや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載してい るか。	5		自発的に行動することを踏まえて支援して いると伝えていきます。	

事業所における自己評価総括表				
公表				
○事業所名	てらびあぼけつと長原駅前教室			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2024年12月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2024年12月1日 ～ 2024年12月5日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	4年目になり振り返ってみると継続利用者が多く、兄弟関係の利用が増え信頼関係が強くなっていること。	4年目となり、保護者様共に成長と一緒に感じ、喜んだりする場面が増えています。さらに向上心と共に子どもたちの状況の変化も共有している。	さらにステップアップしていける様、保護者様との相談支援、状況交流の時間も増やし、職員で共有し、プログラムの工夫、向上を目指していきたい。
2	個別支援で子どもの特性も理解し一人ひとりを大切に寄り添った対応をしていること。	少しのサインにも気づいていけるように子どもの様子や気持ちを大切に、温かく受けとめる雰囲気づくりをしている。	自分の気持ちを言えてよかった、できた等遊びの中で成功体験を積み重ね、自信につなげられる機会を沢山作ってきたい。
3	「広いフロア」で走ったり、ボール遊びをしたり伸び伸びと過ごしストレスを軽減をしていること。	感情のコントロールが難しいこども達、自分の思いが伝えられない子ども達も楽しい時間を作るように心掛けている。	リズムウォークなどの小集団の活動で、ルールを守る、待つことも考え、静かにすることも遊びから伝える。
	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者の方が休職中や仕事復帰のため、利用クールの変更があること。また、事前から申し出る方も増えている。	反対に送迎が心配だけど、仕事に行けないと相談がある。通所利用が2か所の方に今しかないこの時期の母子関係の大切さも伝えている。	福祉の活動・子育てサポートの取り組み・サポート利用・病児保育・預かりなどの資料の呼びかけなどもしている。
2	妊婦の方が増え、体調を崩す時期も様々で送迎が難しく、欠席・キャンセルが増えていること。自転車の送迎も歩く距離もあり、産前産後も協力者が少ない。	園を休んでいて体調がいいといった理由で利用される方がいる。感染症などの出席停止期間も同様で対応していけたらと思う。	家族の方が全員感染症のため、本人だけ「陰性」の場合の対応・必要に応じた適切な方法も心がけている。
3	仕事の都合で午後のクール利用希望者が多いこと。	保護者の都合、職員の体調などを調整し、なるべく保護者の方は利用しやすく、職員は働きやすくゆとりがあればいいと思う。	教室での子ども達一人ひとりの特性に寄り添って、温かくより良い支援が行えるように職員と助け合いゆとりのある支援ができたかと考えている。